令和元年度 地方公共団体定員管理研究会（第1回）【議事要旨】

1. 開催日時 : 令和元年9月5日(木) 15:00~17:00
開催場所 : 総務省共用10階会議室
出席委員等(五十音順)
〈学識者〉
 - ・浅羽 隆史(成蹊大学法学部教授)
 - ・阿部 正浩(中央大学経済学部教授)
 - ・西村 美香(成蹊大学法学部教授)
 - ・原田 久(立教大学法学部教授)〈地方公共団体〉
 - ・白石 直哉(埼玉県企画財政部改革推進課 副課長)
 - ・中澤 雅人(新潟県上越市総務管理部人事課長)
 - ・初田 秀樹(静岡市総務局総務課長)
 - ・山岸 正幸(群馬県みなかみ町総務課長)

2. 議事経過
 - (1) 開会
 - (2) 公務員部長あいさつ
 - (3) 委員等紹介
 - (4) 座長選出
 - (5) 定員管理研究会の概要等について
 - (6) 地方公共団体の職員数の推移、定員管理の参考指標について
 - (7) 地方公共団体における定員管理の取組
 - ・事例発表(埼玉県)
 - ・事例発表(静岡市)
 - (8) 地方公共団体における参考指標等活用状況・ニーズの把握について
 - (9) 閉会

3. 団体事例発表
(埼玉県)
 - ・定員管理については、「埼玉県行財政改革プログラム」に基づき、費用対効果を徹底的に追求し、「最小・最強の県庁」をめざし、スクラップアンドビルドを基本に、定数削減を進めてきた。その結果、県民1万人当たりの職員数が全国最小規模となっている。
 - ・定員モデル等参考指標については、各部門の試算職員数と実職員数を比較し、差が出ている理由を客観的に検証のうえ、本県の定員管理のあり方を見直す際に活用。

(静岡市)

- ・「第1次職員適正配置計画」では、「増員すべきは増員する、減員すべきは減員する」というシェイプアップの考え方にに基づき、定員管理を実施。
- ・「第2次職員適正配置計画」の策定にあたっては、新たな行政需要に対応するための人員の確保すること、働き方改革やICTの活用とあわせ組織の効率性・生産性を高めること、総人件費に留意しつつ職員の適正配置に取り組むことなどを基本としている。
- ・定員モデル等参考指標については、職員適正配置計画を検討するに当たり、現状分析を行う際、特定の分野に職員の偏りがないかを確認するために活用。

4. 意見交換の概要

○定員モデルについて

- ・定員モデルにより試算した職員数はあくまで参考値であり、実際の職員数と誤差が発生する要因を団体ごとに分析することが重要。各団体に対し、定員モデルの使い方を丁寧に説明していく必要があるのではないかと。
- ・説明変数について、各団体の実情に応じ、置き換え等ができれば、より使ってもらえる可能性が広がるのではないかと。
- ・現在、採用している各部門の説明変数について、実際に使用している団体からの意見や要望を踏まえ、新たな行政需要を説明変数に反映させるといった改善を行うべき。

○地方公共団体における参考指標等活用状況・ニーズの把握について

- ・定員モデルの説明変数にかかる現状分析について、第10次モデルに関わるものと、それ以外のものに分けて把握できるようにすべき。
- ・定員モデルを使用していない団体からも、なぜ使用していないのかその理由を聞き取るようにすべき。